



33 西村五雲・西山翠嶂

《朝陽群鶴・月下群鷗図》 対幅

昭和三年（一九二八）

絹本着色

日鶴図…本紙一五九・二×五〇・六

月鷗図…本紙一五八・八×五〇・七

朝陽のもと、雌鶴と雛を傍らに高らかに鳴く雄鶴を描く右幅と、夜更けに明るく照らす月明かりのもとに静かに休む鷗の群れを描く左幅を対とした作品。太陽と月、いわゆる日月は万物を照らすもの、真理や正義などを象徴するもの。鶴は長寿の象徴であり、本図のように番で雛までが描かれることには夫婦和合の意が、また鷗は大海を象徴する意がある。一見、大胆な構図、取り合わせの様に思えるが、本作品には、若き天皇に対する期待や国の繁栄や安寧といった様々な吉祥意を読み取ることが

出来る。本作品が香淳皇后の実家である久邇宮家の依頼によって、昭和の大札に際して製作され、献上されたという経緯を考えれば、画意に含まれた内容は、奥深いものがある。

右幅を担当したのは西村五雲（一八七七～一九三八）、左幅は西山翠嶂（一八七九～一九五八）である。いずれも明治から昭和期にかけて京都画壇で活躍した竹内栖鳳（一八六四～一九四二）門下生で、写実的表現に基づいた洗練された作風を示して高い評価を得た画家であった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan